

BCCWJ と日英パラレル新聞コーパスに基づいた 格外連体修飾形の研究

田邊 和子 (日本女子大学文学部) †

Study of the Case-Outer Relative Clauses Based on the BCCWJ and Japanese-English Newspaper Parallel Corpus

Kazuko Tanabe (Japan Women's University)

要旨

本研究は、日本語の格外連体修飾形（いわゆる「外の関係」）を対象に、BCCWJ と日英パラレル新聞コーパスに基づいて使用実態を明らかにしようとするものである。日本語の格外連体修飾形は、その説明機能によって抽象的内容を叙述するのに有効に使われているにもかかわらず、質量両側面からの包括的研究は、従来、本格的になされてこなかった。

本研究では、日本語教育への応用を視野にいれて、BCCWJ と日英パラレル新聞コーパスの二つのコーパスを駆使することによって、格外連体修飾形の使用の実態を明確にしてみたい。今回の発表では、特に被修飾名詞を直前の動詞の形式に着目し、類型化を試みることにする。

1. はじめに

日本語の連体修飾節の研究は、主に、寺村（1975 - 1978）による「内の関係」「外の関係」の区分に始まり、高橋（1979）、加藤（2003）、大島（2010）によって分析が進められてきた。寺村による被修飾名詞が、修飾節の中で「文に開けるか」すなわち、英語の関係代名詞のように格関係を持っているか否かという基準によって、日本語の連体修飾節を分類したことにに関して、加藤は疑問を唱えたが、大島（2010: 8）に至って「名詞のもつ意味的情報を鑑みることなしに日本語の連体修飾構造を考察することはできない」という見解は、これまでの一連の研究の結果として説得性のあるものである。一方、海外に目を向けると、Comrie (1996, 1998, 2010)が、格外連体修飾形を“Asian-type”(Comrie: 1996)と定めIndo-European languages における relative clauses とは基本的に異なると記述している¹。

しかし、いずれの研究者も検証した例文は、作例だったり、他人論文からの引用や個人的な収集作業によるものであった。また、コーパス使用といっても語の検索機能で例文を引き出すといった作業によるもので、その使用例の「代表性」を認証することはできなかった。コーパス言語学では、「代表性」「均衡性」を確認できることが従来の言語学と比較して優れた点で、特に「代表性」は、使用例全体における比重をコーパス内の頻度を知ることによって、その使用例が全体の中でどれほど代表的であるか判断できる。本研究では、BCCWJ の使用により、特に「格外連体修飾形」に焦点を当てて、その使用実態を明らかにしたい。また、日英パラレル新聞コーパスをも利用して、連体修飾形が英語ではどのように訳されるか、格外連体修飾形の英訳にどのような文法的差異が見られるか考察して

† tanabeka@fc.jwu.ac.jp

¹ Whitman (2011) The relative clause problem (Oxford 発表スライド) は、異なった見解を示している。

みたい。

2. 格外連体修飾形に頻繁に使われる被修飾名詞の抽出

下の表は、BCCWJ コアデータから動詞もしくは助動詞(いずれも連体形)の直後に名詞がくるものを中納言により検索し、先行する動詞数を基準として用例数の多い名詞順にリストアップしたものの一部である。

表1 中納言コアデータによる動詞・助動詞連体形接続名詞頻度順リスト

名詞	修飾 動詞数	修飾 助動詞数	名詞	修飾 動詞数	修飾 助動詞数
こと	3528	1564	うち	68	25
ため	1058	222	前	67	13
もの	564	791	意味	63	16
人	474	374	予定	63	21
わけ	246	106	点	61	38
必要	190	9	中	60	33
場合	186	220	地域	59	35
とき	177	249	方法	59	27
ところ	164	225	言葉	58	38
はず	121	61	理由	56	50
事	120	88	調査	55	20
時	112	164	方針	55	6
者	107	68	際	55	37
情報	87	82	企業	49	40
方	81	129	問題	48	57
つもり	79	14	話	46	52
ほか	75	45	声	46	24
一方	72	11	気	45	93

表1によると²、形式名詞が上位を占め、「一方」や「前」などの相対名詞が続き、普通名詞としては、「必要」「情報」「意味」が連体修飾形における被修飾名詞となりやすいことがわかる。動詞連体形か助動詞連体形のどちらが共起しやすいかという点では、動詞の比重が大きい「こと」「ため」「はず」「つもり」「一方」に対して、助動詞接続が多いのは「とき」「ところ」「時」「方」「気」が挙げられる。「～した」の「た」も助動

² 検索式例(動詞の連体形の直後に名詞がくるもの)は、以下のようになる。

キー: (品詞 LIKE "動詞%" AND 活用形 LIKE "連体形%") AND 後方共起: 品詞 LIKE "名詞-普通名詞%" ON 1 WORDS FROM キー DISPLAY WITH KEY IN (registerName="出版・新聞" AND core="true") OR (registerName="出版・雑誌" AND core="true") OR (registerName="出版・書籍" AND core="true") OR (registerName="特定目的・白書" AND core="true") OR (registerName="特定目的・知恵袋" AND core="true") OR (registerName="特定目的・ブログ" AND core="true") WITH OPTIONS unit="1" AND tglWords="20" AND limitToSelfSentence="1" AND endOfLine="CRLF" AND tglKugiri="|" AND encoding="UTF-8" AND tglFixVariable="2"

詞となるので、ここでは動詞の「～する(動詞の連体形)」以外の形も取ることが多いということを意味する。

表2は、日英パラレル新聞コーパスの日本語コーパス部分で、「する」「ている」「ていた」「される」「させる」のそれぞれ後に続く語(1R)を検索し、用例数の頻度順にリストにしたものである。被修飾名詞によって、連体節内の文法形式に特徴があることがわかる(例:～する方針、～ていた疑い、～される見通し、～させる必要)。

表2 日英パラレル新聞コーパスにおける被修飾名詞と文法形式のつながり

する		ている		ていた		される		させる	
用例数	1R	用例数	1R	用例数	1R	用例数	1R	用例数	1R
4764	。	19372	。	3428	。	1379	。	352	こと
4647	こと	1617	の	779	こと	403	こと	177	ため
2044	ため	1489	こと	530	が	283	の	157	。
1692	の	1358	が	438	と	152	と	91	の
1494	と	1143	と	254	の	132	よう	46	に
1058	よう	855	」	140	」	110	見通し	45	よう
1033	方針	325	ため	93	疑い	103	が	44	と
776	」	315	よう	77	ため	95	べき	44	べき
686	など	197	か	65	「	85	「	43	必要
627	「	193	「	58	もの	61	予定	41	方針
605	か	185	から	42	から	60	など	32	」
572	必要	127	、	39	として	51	可能	28	か

下記表3～10は、BCCWJ コアデータから着目する名詞を含む文節に係っている直前の文節の末尾に表れる動詞・助動詞(連体形)の用例数を茶器により検索したものである。それぞれに用例数の多いもの6語をリストアップしている(同数のものは茶器 word list での並び順による)。表3～7の名詞は、表1の中にあるものを選び出した。表1には含まれていないが、表8～10の名詞も参考として同様に調べている。表8の「システム」のような外来語も格外連体修飾形の対象になるので検索してみた。表1と同じ調査で、「システム」を修飾する動詞の用例は35、助動詞は13であり、リスト中で比較的順位の高い外来語である。

表3 「必要」に係る動詞・助動詞

	動詞	用例数	Ratio(%)	助動詞	用例数	Ratio(%)
TOTAL		190	100		10	100
1	する	76	40	せる	3	30
2	いく	21	11.05	な	2	20
3	おく	9	4.74	れる	2	20
4	行う	4	2.11	させる	1	10
5	作る	4	2.11	た	1	10
6	図る	4	2.11	られる	1	10

表4 「地域」に係る動詞・助動詞

	動詞	用例数	Ratio(%)	助動詞	用例数	Ratio(%)
TOTAL		68	100		29	100
1	する	15	22.06	た	14	48.28
2	いる	13	19.12	な	10	34.48
3	よる	8	11.76	ない	2	6.90
4	ある	6	8.82	れる	2	6.90
5	なる	3	4.41	たい	1	3.45
6	行う	3	4.41			

表5 「理由」に係る動詞・助動詞

	動詞	用例数	Ratio(%)	助動詞	用例数	Ratio(%)
TOTAL		57	100		50	100
1	いる	16	28.07	た	21	42
2	いう	12	21.05	な	13	26
3	する	7	12.28	ない	11	22
4	考える	5	8.77	たる	1	2
5	こだわる	2	3.51	てる	1	2
6	ある	1	1.75	でる	1	2

表6 「問題」に係る動詞・助動詞

	動詞	用例数	Ratio(%)	助動詞	用例数	Ratio(%)
TOTAL		74	100		69	100
1	いる	14	18.92	な	31	44.93
2	いう	13	17.57	た	24	34.78
3	関する	8	10.81	べき	5	7.25
4	する	4	5.41	ない	3	4.35
5	ある	3	4.05	る	3	4.35
6	かかわる	2	2.70	れる	2	2.90

表7 「気」に係る動詞・助動詞

	動詞	用例数	Ratio(%)	助動詞	用例数	Ratio(%)
TOTAL		42	100		84	100
1	する	10	23.81	な	72	85.71
2	いう	6	14.29	た	8	9.52
3	いる	6	14.29	たい	1	1.19
4	かける	1	2.38	って	1	1.19
5	くる	1	2.38	てる	1	1.19
6	しまう	1	2.38	れる	1	1.19

表 8 (参考) 「システム」に係る動詞・助動詞

	動詞	用例数	Ratio(%)	助動詞	用例数	Ratio(%)
TOTAL		63	100		25	100
1	する	25	39.68	な	14	56
2	できる	12	19.05	た	11	44
3	いう	4	6.35			
4	いく	2	3.17			
5	なる	2	3.17			
6	図る	2	3.17			

表 9 (参考) 「感じ」に係る動詞・助動詞

	動詞	用例数	Ratio(%)	助動詞	用例数	Ratio(%)
TOTAL		27	100		78	100
1	いう	12	44.44	た	26	33.33
2	いる	4	14.81	な	21	26.92
3	言う	3	11.11	って	18	23.08
4	いく	1	3.70	てる	7	8.97
5	つき合える	1	3.70	ない	3	3.85
6	とろける	1	3.70	れる	2	2.56

表 10 (参考) 「結果」に係る動詞・助動詞

	動詞	用例数	Ratio(%)	助動詞	用例数	Ratio(%)
TOTAL		33	100		51	100
1	いう	14	42.42	た	42	82.35
2	する	4	12.12	な	4	7.84
3	関する	3	9.09	だ	2	3.92
4	ある	1	3.03	る	2	3.92
5	いる	1	3.03	ない	1	1.96
6	かかる	1	3.03			

この一連の表の結果を考察すると、被修飾名詞には、大きく分けて「する」形と結びつきやすいもの（例：必要）、「～た」形と結びつきやすいもの（例：地域・結果）その他「～べき問題」「～な気」「～できるシステム」といったある特定の表現との結びつきを窺わせる名詞の3つのグループに大きく分けられる。さらに、「という」との接続が、高い比率を示していたり（例：感じ・結果）、否定形「ない」との接続比率が高いという特徴を持つ語もある（例：理由）。このように格外連体修飾形の機能については、被修飾名詞の内容を説明するというのが従来の一般的な見解であった。本研究でのコーパス利用によって被修飾名詞の意味に従って接続している文法形式もそれぞれ特徴があることが明確になった。

3. 節単位による格外連体修飾形の分析

本項では、連体修飾節全体を視野に置き、コーパスによる使用実態の考察を試みること

にする。

Left	Center	Right
ているとか「進歩している」とか、そういった	理由	で侵略する権利を認めることは、断じてでき
の身の回りの世話をしているから」といった	理由	で同居する「非パラサイト型」の人は合わせ
を親を介護する、親の家業を手伝うといった	理由	で親と同居している人も含まれている。
私が電話をかけた	理由	を私はちゃんと知っている。
に登場し、今日まで連綿と生きつづけてきた	理由	はいくつか考えられますが、その一つとして
1審より減刑した	理由	について安広裁判長は、詐欺の被害者であ
意識実態調査」(二千三年)では、結婚した	理由	は何ですかという問に対し、「経済的理由か
り入社を辞退した女性であること、辞退した	理由	のこと、そういうわけで結婚までに間をおく
のこだわり、つまり標準仕様として選択した	理由	は、明確でした。
SIがあらゆる産業に使われるようになった	理由	は、もちろん今までなかった新しい機能を持
ように、外敵に強いことも絶滅をまぬかれた	理由	といえます。

図1 「～た理由」用例

上記図1はBCCWJのコアデータから、表5で検索した、「理由」に係る助動詞の用例をエクセルに出力したものの一部である。各用例の同一のキーワードを中心に揃え左右に文を拡げたKWIC(Key Word In Context)と呼ばれる表形式である。代表用例を抽出してみた。

「～た理由」代表的用例の抽出

- a. ～といった理由で、
- b. (辞退した/結婚した/選択した)理由は、
- c. 使われるようになった理由は、
- d. 絶滅をまぬかれた理由

このように実際に使われている表現を客観的に収集できることは、コーパス利用の成果ならではのことである。

次の図2は日英パラレル新聞コーパスから語や句の用例を検索できるパラレルコンコーダンスのWebParaNews³で「～た理由」を検索した画面の一部である。1~5における日英対応文における理由の表現を確認してみたい。

1. 理由の叙述としては、'citing insufficient measures~'における現在分詞citingが有効に使われている。
2. 'argue that~'という表現の使用によって「(that以下の内容)が理由で反対した」という訳になっている。
3. Because節によって理由が説明されている。
4. 'for some peculiar reason, Ota reversed his position'が、「反対に転じた理由が不透明」という格外連体修飾形に対しての訳で、「不透明な理由で、反対に転じた」という逆パラフレーズ(パラフレーズの解体作業)の一例となっている。
5. 'attribute to~'を使って「～た理由については、」を訳している。

³ <http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/webparanews/>

1	税制の是正が不十分」といった理由のほか、来年の参院選
2	まで日韓基本条約を認めなかった理由として、同条約が、韓国
3	制服着用に踏み切った理由の一つは、生徒たちが
4	反対に転じた理由は不透明だ。
5	率六・二%より一・五ポイントも高かった理由について、厚生省は、四年
1	SDPJ Secretary General Wataru Kubo and other SDPJ members voiced opposition against handling the bills in one package, citing insufficient measures to correct inequalities in the tax system and the effect on a House of Councillors election next year.
2	The SDPJ has argued that the treaty recognizes South Korea as the only legitimate government on the Korean Peninsula.
3	Long Beach introduced uniforms because students were attacked by gang members on a number of occasions when they were wearing T-shirts or hooded sweat shirts bearing certain patterns or emblems, according to board of education officials.
4	However, for some peculiar reason, Ota reversed his position and now opposes transfer of the base's functions within the prefecture.
5	The ministry attributed the 1.5 percentage point rise in fiscal 1992 to diagnostic examination and treatment fee hikes and an increase in interferon prescriptions for hepatitis treatments, the officials said.

図2 「～た理由」検索画面

1	的自衛権の行使を可能にする必要がある。
2	を抑圧する過剰な規制を削減する必要がある。
3	厳格な検査体制を速やかに構築する必要がある。
4	憲法を超える視点で改革を議論する必要はないのか。
5	核拡散を何としてでも阻止する必要がある、との共通の
1	Japan's use of collective self-defense should be allowed so the Japan-U.S. alliance, which has won international confidence as the stabilizer of the world, can function effectively.
2	We need to cut back excess regulation, which suppresses innovation, enterprise and creativity.
3	To reassure consumers, a rigorous inspection system should be put in place to ensure that not one cow with BSE reaches the marketplace.
4	It may be necessary to discuss how these institutions might be changed, too.
5	But the meeting ended up reaching consensus on the issue, chiefly because all members now share the view that it is essential to prevent nuclear proliferation at all costs.

図3 「～する必要」検索画面

上記図3はWebParaNewsで「～する必要」を検索した画面の一部である。「～する必要(がある)」の訳においては、2 'need' 4 'necessary' 5 'essential' のように意味的に直接関係する単語が使用されているので、「～た理由」ほどは、多様な英語表現は使用されていない。これは、「する必要」という格外連体修飾形というよりも、「～する必要はある」という表現として使用されることが多いため、1と3における助動詞 *should* が「～する必要はある」の訳として使われやすいこともこのためだろう。

4. まとめ

格外連体修飾形の機能については、被修飾名詞の内容を説明するというのが従来の一般的な見解であった。本研究では、コーパスを利用することによって被修飾名詞の個別使用頻度に従って、その「代表性」を把握し、それぞれが接続している文法形式の特徴も明確にすることができた。その指標となる主なものは「する形」「た形」「～な形」である。これらは、名詞の意味によってさまざまな特徴を示していることが判明した。また、代表用例を抽出することも容易になり、使用実態を文単位でも把握できることを証明した。また、日英パラレルコーパス利用によって、名詞修飾節の日英対照比較研究を、実践的に行うことができ、特に翻訳の分野では多種多様な例を日英両方で把握することができる可能性を示唆した。

謝 辞

本研究は、文部科学省科学研究費補助金、基盤（C）課題番号 25370496（研究代表者：田辺和子）による補助を得ています。

文 献

- 中條清美、アントニ・ローレンス、西垣知佳子(2012)「日英パラレルコーパス検索サイト WebParaNews の公開—開発と実践利用—」, 外国語教育メディア学会 (LET) 第 52 回全国研究大会, 甲南大学, 岡本キャンパス, 発表要項集, pp.94-95.
- Comrie, Bernard. (1996) The unity of noun modifying clauses in Asian languages. *Pan-Asiatic Linguistics: Proceedings of the Fourthe International Symposium on Languages and Linguistics, January 8-10, 1996, Volume 3*, pp.1077-1088.
- Comrie, Bernard. (1998) Rethinking the typology of relative clauses. *Language design*. pp.59-86.
- Comrie, Bernard. (2010) Japanese and the other languages of the world. *NINJAL project review1*. pp.29-45.
- Frellesvig, Bjarke&John Whitman. (2011) Prenominal complementizers and the derivation of complex NPs in Japanese and Korean. In William McClure(ed.) *Japanese/Korean linguistics* 18, pp.73-87. Stanford: CSLI.
- 加藤重広(2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房
- Kawaguchi, Yuji(eds.). (2007) *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*. John Benjamins. Amsterdam/Philadelphia.
- Matsumoto, Yoshiko. (1988) Semantics and pragmatics of noun-modifying constructions in Japanese. *Berkeley Linguistics Society* 14, pp.166-175.
- 大島資生(2010)『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房
- 高橋太郎 (1979)「連体動詞句と名詞のかかわりについての序説」高橋太郎 (1994) むぎ書房所収
- 寺村秀夫(1975-1978)「連体修飾のシンタクスと意味(1)-(4)」寺村(1992)所収
- 寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集 I—日本語文法編—』くろしお出版
- 丹羽哲也(2013)「連体修飾における基本形とタ形の対立」藤田保幸編『形式語研究論集』和泉書院